

# 山行報告書

日時	2014年8月31日(日)		
山名	九重の谷 小田川(おだがわ) ~冷泉の湧く沢登り~		
CL	阿部(哲)	参加者	単独
HP記載の有無：有			
(コース)	<p>歩行距離 10.9km 行動時間 7:47 標高差+1084 -1037</p> <p>沓掛山 1503m 扇ヶ鼻 1698m 岩井川岳(イワコダケ) 1522.3m</p> <p>筋湯温泉入口バス停8:15~小田川・九重橋8:21~二俣分岐(左俣へ)10:40/11:00~12/41~          沢終了/尾根11:53~縦走路12:10~沓掛山12:12/41~扇ヶ鼻分岐13:25~扇ヶ鼻14:10~          分岐14:32~岩井川岳14:37~ルート探索~分岐14:57~迂回路出会15:35~          林道出会15:41~瀬の本登山口15:48~九重橋15:51~バス停15:56</p>		
(コメント)	<p>「九州の沢と源流(絶版)」によると初心者向けとのことであるが、今回も水量が多く、今まで経験した沢のなかでは一番厳しかった。小田川は、源流手前に硫黄が湧いている場所があるため岩も赤茶けており、水質も「赤川鉱泉」のようであり、冷泉を楽しみながら遡行できる(但し15℃位で冷たい)。</p> <p>大きな滝は少なく、普段なら簡単に登れそうであるが、水量が多いため、流れが少ない場所を探して登ることになるためポルダリング的な技術を使って、体をひねりながら登ることになった。源流手前で二俣に沢が別れるが、ガイド本に記載に従って左俣に突入した。現在では、藪を避けるため右俣のガレ場を扇ヶ鼻方向に遡行するのが一般的の様である。</p> <p>藪は激藪レベルで、尾根に出合うまでは、90度お辞儀の姿勢でススキを泳ぐようにヘルメットから突入。尾根に上がっても密生して灌木やヤマキリシマの間をぬうようにして、縦走路まで約1時間の激藪ごぎであった。</p> <p>また、岩井川岳手前の分岐より、瀬の本登山口までは、伐採作業のため通行禁止であったが日曜で作業中止のため通らせてもらった。</p> <p>次回は、右俣を登って楽しい遡行を行いたい。</p>		
費用概算 (交通費) (その他)	総額約¥1,400		

